



ミュージアムでは、使命や中期計画に紐付いた評価指標を網羅的に設定し、その数値を調査し、目標到達度で判定していく「業績測定型評価」が主流である。一方で、評価学の世界では、さまざまな目的にあった評価手法が提示され、運用されている。経済学においても、市場を通らない価値を貨幣換算する手法が使われている。

ミュージアム評価を別の学問分野からみると、どんな地平が見えてくるか？その手法を広めるためのハードルは、人材不足なのか、調査経費なのか？そして、ミュージアムの価値を決めるのは誰か？

12月11日開催 プラス・ミュージアム・プログラム 公開シンポジウム

参加者募集



ミュージアム評価の呪縛からの脱出

パネリストとコーディネーター

- パネリスト：源 由理子（明治大学 教授）
佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館 学芸課長）
林 勇貴（大分大学 准教授）
- コーディネーター：佐々木 亨（北海道大学 教授）
卓 彦伶（北海道大学 特任准教授）

開催日時と開催方式

- 開催日時：2022年12月11日（日）13:00～16:45
- 開催方式：対面もしくはオンライン（Zoom）
- 会場：札幌市北区北10条西7丁目 北海道大学人文・社会科学合教育研究棟 W408
- プログラム：13:00～14:40 開催挨拶&パネリスト報告 14:40～15:00 休憩
15:00～16:45 ディスカッション
トピック：①ロジックモデルを導入することで、あらたに思考が及ぶどんな範囲が見えてくるか？②外部便益測定を導入すること、あらたに思考が及ぶどんな範囲が見えてくるか？③あらたな評価手法を社会実装するためのハードルは何か？

プログラム概要

「プラス・ミュージアム・プログラム」は、わたしたちを取り巻くさまざまな課題にミュージアムならではのやり方でアプローチする方法を学ぶ3年間のリカレント教育プログラムです。1回だけの参加、オンラインでの参加、遠方からの参加も歓迎します。

主催：北海道大学文学研究院 共催：北海道大学総合博物館 助成：文化庁「令和4年度大学における文化芸術推進事業」（事業名「ミュージアムにおける異分野との「対話」と「寄り添い」を通じた人材育成事業」）



申し込み方法

- 事前のお申し込みが必要です。ご希望の方は <https://forms.gle/E7LgyPr1UZVen1Zk7> またはQRコードより申し込みフォームへとお進みください。締め切りは12月9日（金）13時です。事前にレジュメを参加者に配布いたします。参加費は無料です。
- お問い合わせ：〒060-0810
札幌市北区北10条西7丁目北海道大学文学研究院内「プラス・ミュージアム・プログラム」事務局
Mail: plusm@let.hokudai.ac.jp TEL: 011-706-4053

